

宮崎市文化財調査報告書第146集

# 伊勢ノ原遺跡（第3地点）

畑地帯総合整備事業（担手支援）内山東地区に伴う埋蔵文化財調査報告書



2024

宮崎市教育委員会





宮崎市文化財調査報告書第146集

# 伊勢ノ原遺跡（第3地点）

畑地帯総合整備事業（担手支援）内山東地区に伴う埋蔵文化財調査報告書

2024

宮崎市教育委員会



## 宮崎市文化財調査報告書第146集『伊勢ノ原遺跡（第3地点）』 正誤表

頁	行	誤	正
5	4	基本層序5から7層にかけて…	基本層序6aから6b層にかけて…
6	7	SI3からは無文土器2類 (1)、…	SI3からは無文土器1類 (1)、…
6	25	SI17・21は6a層で…	SI17・21は6b層で…
6	27	SI25は7層で…	SI25は6b層で…
10	第5表	第5表 遺構出土陶磁器観察表	第5表 遺構 <sub>凸</sub> 出土陶磁器観察表

## 序

本書は令和3年度に農道敷設に伴い実施された伊勢ノ原遺跡（第3地点）の発掘調査報告書です。

宮崎市では様々な開発事業が行われており、それによって消失する遺跡（埋蔵文化財）を記録するための発掘調査を実施しております。

伊勢ノ原遺跡は宮崎市高岡町浦之名にある標高約80mの伊勢ノ原台地上に所在し、周辺の調査では旧石器時代から縄文時代までの多くの遺構や遺物が検出されています。今回の発掘調査では、縄文時代や近世などの各時期における遺構と遺物を確認することができました。なかでも縄文時代早期の集石遺構は19基が見つかり、集石遺構から採取した炭化材を用いて年代測定や樹種同定を実施しています。これらの成果は、当時の環境や人々の暮らしぶりを復元する上でも貴重な資料となります。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習などにも活用され、埋蔵文化財保護の理解につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施につきまして理解とご協力を賜りました地元の方々、宮崎県中部農林振興局の皆様にご心から感謝し御礼申し上げます。

令和6年3月

宮崎市教育委員会  
教育長 西田 幸一郎

## 例 言

1. 本書は畑地帯総合整備事業（担手支援）内山東地区に伴って行われた宮崎市高岡町に所在する伊勢ノ原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本業務は宮崎県中部農林振興局から依頼を受けて令和3年度から実施している。発掘調査は令和3年度で終了し、令和4年度から令和5年度にかけて整理作業を行った。
3. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体：宮崎市教育委員会

令和3年度（発掘調査）			令和4・5年度（整理作業）		
文化財課	課長	白坂 敦	文化財課	課長	白坂 敦 (R4)
総括	埋蔵文化財調査係長	秋成雅博		課長	町田英則 (R5)
調整担当	主査	西嶋剛広	総括	埋蔵文化財調査係長	秋成雅博 (R4)
庶務担当	主事	高田真帆		埋蔵文化財調査係長	秋成雅博 (R5)
調査担当	主任技師	市川勇樹	調整担当	主査	西嶋剛広
	技師	中村優太	庶務担当	会計年度任用職員	宜野座さち (R4)
	会計年度任用職員	上村幸広		会計年度任用職員	野津原広枝 (R5)
	会計年度任用職員	黒木 宏	整理担当	主任技師	市川勇樹
	会計年度任用職員	木本嘉奈子		会計年度任用職員	小牟田智子 (R4)
	会計年度任用職員	鈴木律子		会計年度任用職員	永友加奈子 (R5)

4. 遺構の実測は秋成・市川・中村、金丸武司、島田正浩が、トレースは黒木及び小牟田が主に行った。なお一部については南ジバング・サーベイに委託した。
5. 遺物実測は生目の杜遊古館にて市川・小牟田及び整理作業員が主に行い、一部の遺物実測及びトレース、遺物分布図の作成を南ジバング・サーベイに委託した。
6. 遺構、遺物の写真撮影は市川が行った。
7. 本書で使用する北は真北で、使用する遺構の略記号は以下の通りである。  
SI：集石遺構 SC：土坑 SE：溝状遺構
8. 自然科学分析は藤古環境研究センターに委託した。
8. 本書における、石器石材の分類は蛍光X線分析を実施した1点を除き、肉眼観察によるものである。
8. 本書の執筆、編集は市川が行った。
9. 出土遺物及び掲載図面・写真は宮崎市教育委員会にて保管している（資料の閲覧・利用については問い合わせが必要）。

なお、本書の刊行に当たって以下の方にご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

高橋浩子（宮崎県文化財課）

（敬称略）



## 本文目次

第Ⅰ章	はじめに	1
第1節	遺跡の環境	1
第2節	遺跡の名称変更について	1
第3節	調査に至る経緯	3
第Ⅱ章	調査成果	4
第1節	調査概要	4
第1項	調査方法	4
第2項	基本層序について	4
第2節	旧石器時代の調査	4
第3節	縄文時代以降の調査	5
第1項	遺構について	5
第2項	包含層出土土器について	11
第3項	包含層出土土器について	16
第Ⅲ章	自然科学分析について	19
第Ⅵ章	まとめ	20

## 挿図目次

第1図	伊勢ノ原遺跡周辺の遺跡分布図	2
第2図	伊勢ノ原遺跡調査地点位置図	3
第3図	伊勢ノ原遺跡基本土層図	4
第4図	遺構配置図	5
第5図	縄文時代遺構実測図①	7
第6図	縄文時代遺構実測図②	8
第7図	縄文時代遺構実測図③及び出土遺物実測図	9
第8図	近世の溝状遺構(SE1)実測図及び出土遺物実測図	9
第9図	包含層出土土器分布図【型式別】	11
第10図	包含層出土土器実測図①	12
第11図	包含層出土土器実測図②	13
第12図	包含層出土土器分布図【器種別】	14
第13図	包含層出土土器分布図【石材別】	14
第14図	包含層出土土器実測図①	15
第15図	包含層出土土器実測図②	16
第16図	黒曜石産地推定判別図①	19
第17図	黒曜石産地推定判別図②	19

## 表目次

第1表	伊勢ノ原遺跡調査地点新旧対照表	3
第2表	縄文時代早期集石遺構計測表	10
第3表	遺構内出土土器観察表	10
第4表	遺構内出土土器観察表	10
第5表	遺構内出土陶磁器観察表	10
第6表	包含層出土土器観察表①	17
第7表	包含層出土土器観察表②	18
第8表	包含層出土土器観察表	18
第9表	放射性炭素年代測定及び樹種同定結果	19
第10表	黒曜石の各測定値及び産地推定結果	19

## 写真図版

図版1	調査風景及び遺構写真	21
図版2	遺構及び遺物写真	22
図版3	遺物写真	23



## 第I章 はじめに

### 第1節 遺跡の環境

伊勢ノ原遺跡が所在する宮崎市は宮崎県の南東部に位置する。鹿児島県曾於市を源流とし、山間部から宮崎市を流れて日向灘へ注ぐ一級河川である大淀川の沖積作用によって宮崎平野が形成されており、その下流部に市街地が広がる。

伊勢ノ原遺跡は宮崎平野の西側にある高岡町に位置し、町の中央を流れる大淀川左岸に形成された伊勢ノ原台地上の一角にある。遺跡の立地する台地は大淀川とその支流である内山川によって区切られており、爪先を東に向けた長靴のような形状となっている。調査地は台地先端部の北端に立地し、西側に入り込んだ迫と北側の段丘崖に接する台地際に位置する。

調査地の所在する伊勢ノ原台地上を含め、周辺には多くの遺跡が分布する。

旧石器時代は、橋上遺跡、野中遺跡（旧野中第1遺跡）、などで調査が実施されており、また、高浜高野原遺跡（旧高野原遺跡）ではAT層下位の調査が行われている。

縄文時代は、草創期から晩期まで確認されている。草創期から後期は橋山遺跡群（旧橋山第1遺跡、橋山第2遺跡、橋山第3遺跡）で、晩期は下倉永学頭遺跡（旧学頭遺跡）において調査が実施されている。伊勢ノ原台地上では、橋上遺跡で7地点、伊勢ノ原遺跡で2地点（旧松ノ元遺跡、旧浦之名上原遺跡）調査が実施され、早期の集石遺構や陥し穴状遺構が検出されている。

弥生時代は、丹後掘遺跡で確認されており、中期の堅穴住居が検出されている。また、下倉永学頭遺跡からは断面V字状を呈する溝状遺構や堅穴住居が検出されている。

古墳時代は、県指定史跡である高岡町古墳の周囲を耕作中に中期の二重口緑壺や鉄斧が出土している。また、高岡麓遺跡第5地点からは5世紀代の堅穴住居2軒が調査されている。

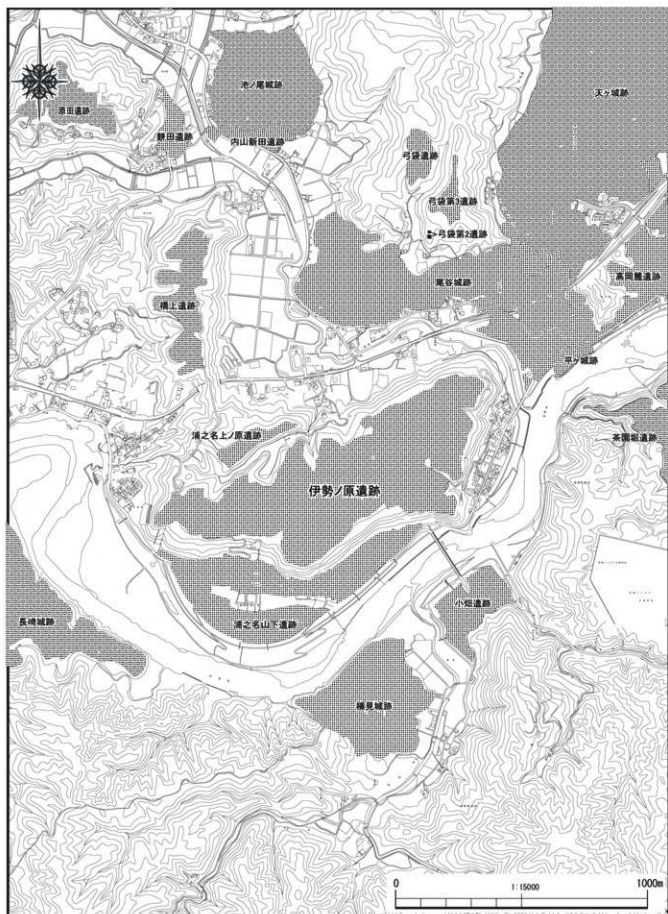
古代は、三蔵原遺跡（旧萩野遺跡）において、9世紀後半以降の土師器壺や皿等を焼成した土坑が検出されている。また三生江遺跡からは緑釉陶器、越州窯系青磁碗等が出土している。

中世における当遺跡周辺は、「島津荘穆佐院」と称されていた。南北朝期から中世末まで、その中心となったのが穆佐城であり、14世紀後半から16世紀末までの遺物が多く出土している。

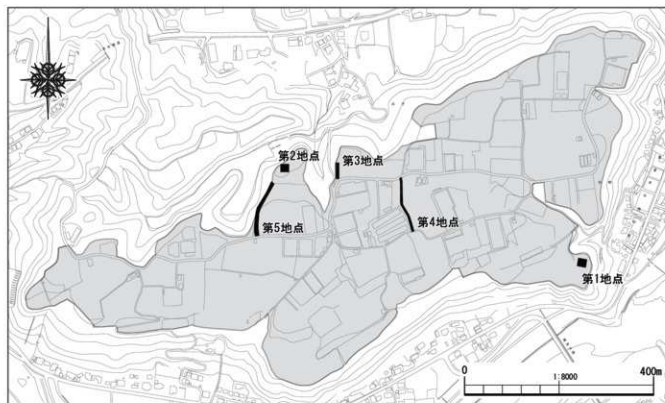
近世には、地域の中心が天ヶ城周辺へ移動し、山裾に麓集落を形成している。この麓が高岡麓遺跡であり、現在までに確認調査も含め65地点にわたって調査が行われている。

### 第2節 遺跡の名称変更について

宮崎市では、遺跡詳細分布地図の改訂作業を平成23年度から令和3年度にかけて行い、令和4年12月に終了した。この作業では包蔵地の範囲とともに、遺跡名称の変更も行われた。今回報告する伊勢ノ原遺跡では、一帯の調査事例及び、周辺の地形観察から埋蔵文化財が面的に分布する可能性が高いことが明らかになってきた。そのため、同じ伊勢ノ原台地上に立地する松ノ元遺跡、浦之名上原遺跡と従来の伊勢ノ原遺跡を統合し、最も広い面積を占める「伊勢ノ原」の小字名から「伊勢ノ原遺跡」に変更した。また遺跡名称を「第〇地点」に改めることとし、試掘確認調査を実施した箇所も地点番号を付した。



第1図 伊勢ノ原遺跡周辺の遺跡分布図 (S=1/15000)



第2図 伊勢ノ原遺跡調査地点位置図 (S=1/8000)

第1表 伊勢ノ原遺跡調査地点新旧対照表

新地点名	調査内容(調査年度)		調査原因	旧遺跡名	報告書
第1地点	試掘調査 (H29年度)	本調査 (H29年度)	高圧鉄塔建設	松ノ元遺跡	『浦之名地区道跡群』 2021
第2地点	試掘調査 (H29年度)	本調査 (H29年度)	高圧鉄塔建設	浦之名上原遺跡	『浦之名地区道跡群』 2021
第3地点	確認調査 (R2年度)	本調査 (R3年度)	農道敷設	伊勢ノ原遺跡	本書にて報告
第4地点	確認調査 (R2年度)	—	農道敷設	伊勢ノ原遺跡	未報告
第5地点	試掘調査 (R2年度)	—	農道敷設	浦之名上原遺跡	未報告

### 第3節 調査に至る経緯

令和2年4月15日、畑地帯総合整備事業(担手支援)内山東地区に伴い宮崎県文化財課が確認調査を実施し、結果、遺構及び遺物が確認された。

この結果を受け、宮崎県中部農林振興局、宮崎県文化財課、市文化財課で埋蔵文化財の取り扱いに関する協議を行い、工事掘削の及ぶ範囲において発掘調査を実施することとなった。そのため、令和3年5月11日付けで宮崎県中部農林振興局から文化財保護法第94条第1項の工事通知が提出され、その後、令和3年11月9日から令和4年2月15日の期間発掘調査を実施した。その調査成果については、整理作業を令和4年5月25日から令和6年3月29日の期間実施している。なお、開発主体者である宮崎県中部農林振興局には様々な場面でご協力とご配慮を頂いたことを付しておきたい。

## 第II章 調査成果

### 第1節 調査概要

#### 第1項 調査方法

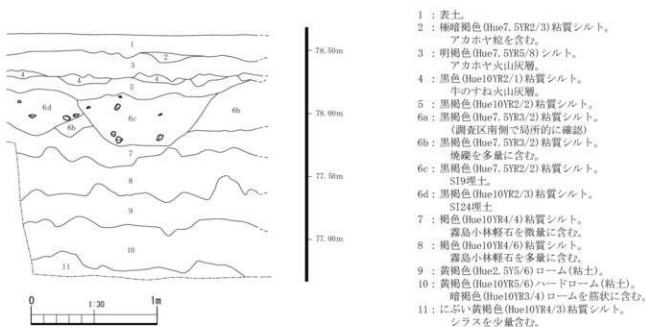
調査区は重機による表土剥ぎ後、アカホヤ火山灰層上面（基本層序3層）で縄文時代前期以降の遺構検出を行った。ただし、調査区南半は表土による攪乱を受けており、表土直下が4から5層であった。そのため調査区北半に残存していた3層を掘削後、4から5層上面で縄文時代早期以降の遺構検出を行った。その後、8層上面まで縄文時代早期の調査を行った。旧石器時代の調査については7層までの掘削が終了後、土層観察のために設定したトレンチを掘削し、遺物の出土状況を観察することで行った。

#### 第2項 基本層序について

調査地は西側の迫及び北側の段丘崖に接するものの、斜面落ち際の平坦面に位置することから水平に近い安定した堆積であった。4から7層が縄文時代早期遺物包含層に該当する。また、6a層を調査区南側で局所的に検出した。6b層と異なり、層中にほとんど焼礫を含まないことが特徴である。SI3、4を除いた他の集石遺構は全て6b層中で検出しており、6a層と6b層の違いは土地利用の差によるものと考えられる。

### 第2節 旧石器時代の調査

基本層序9層から礫が1点出土した。調査地の土層堆積が安定していることから、流入の可能性は薄く、調査地周辺に礫層が存在しないことから、人為的なものと推測される。そのため、トレンチを拡張して追加調査を行ったが、礫や遺物が出土しなかったため、調査を終了した。



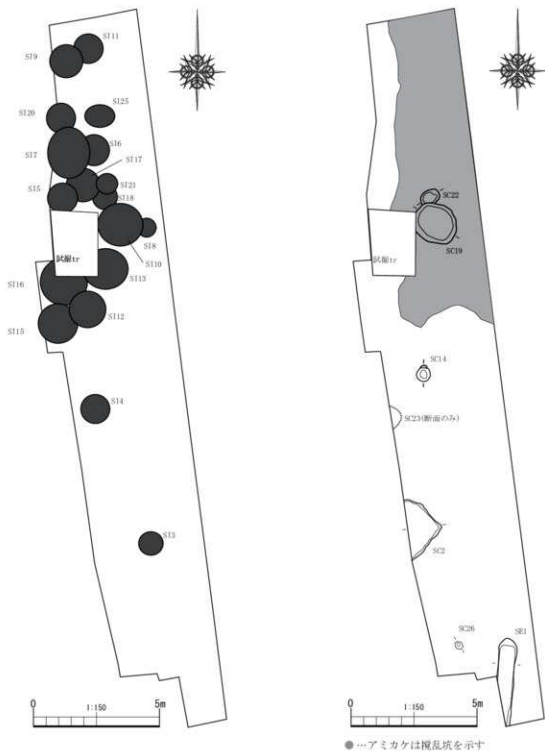
第3図 伊勢ノ原遺跡基本土層図 (S=1/30)

### 第3節 縄文時代以降の調査

#### 第1項 遺構について

##### 集石遺構

集石遺構は基本層序5から7層にかけて19基を検出した。時期は全て縄文時代早期に該当する。集石遺構の調査方法として、散礫を検出後、焼礫が集中する範囲、もしくは掘り込みの



第4図 遺構配置図 (S=1/150)

プランが確認できるまで面で掘削した。確認後、上位の埋土を除去し、写真撮影を行った。また、5から7層の掘削に伴い多量の礫が出土した。礫は主に6b層から出土している。礫の分布をみると、調査区南側は希薄であるが、集石遺構が密集して検出された北側に集中して分布する。礫の総数は27981個である。出土遺物については既存の分類に基づいて報告を行う。

SI3、4は6a層で検出した。どちらも断面がレンズ状の掘り込みを有する。この2基以外の集石遺構は調査区北側で検出しており、他の集石遺構と比べ、礫の範囲及び掘り込みの規模は小型である。また遺構上位から散礫も出土していない。SI3からは無文土器2類(1)、SI4からは押型文1類(2)が出土している。

SI6・7は6b層で検出した。SI6は断面がレンズ状、SI7は断面がボウル状の掘り込みを有する。平面プランを検出した際は、明確な埋土の違いが認識できなかったが、土層ベルトでSI7の掘り込みが立ち上がることを確認したため、SI7とSI6の前後関係を把握した。押型文1類(3,6)、押型文2類(4,5)が出土している。炭化物は補正年代で8675±30年BPの測定値が得られ、木材はクリと同定された。

SI10は6b層で検出した。断面がボウル状の掘り込みを有する。他の集石遺構と比べ、埋土上部にある構成礫の多くが被熱により破砕していた。破砕礫の多くが小破片であり、工程上それらは取り除いた上で記録をしている。埋土下部に押型文2類(7,8)、チャート製石鏃(9)が出土している。

SI13は6b層で検出した。断面がレンズ状の掘り込みを有する。拳大の礫が密集して充填され、底石も有する。礫1点あたりの平均重量が0.1kgであり、SI13以外の平均重量が概ね0.06kgであることから、比較的大振りな礫を選択して使用した可能性が考えられる。押型文2類(10)、下剥峯式(11)、チャート製石鏃(12)が出土している。

SI16は6b層で検出した。断面がレンズ状の掘り込みを有する。3基の集石遺構と重複しており、礫の充填も中央部を除き散漫である。桑ノ木津留産黒曜石製石鏃未製品(13)が出土している。炭化物は補正年代で8600±30年BPの測定値が得られた。

SI17・21は6a層で検出した。どちらも断面がレンズ状の掘り込みを有する。SI17から採取した炭化物は補正年代で8570±30年BPの測定値が得られ、木材はスダジイと同定された。

SI25は7層で検出した。断面がレンズ状の掘り込みを有する。構成礫は全体的に散漫に充填される。SI25の上位からは多くの散礫が出土していたが、明確なプランを確認後、記録したため、本来の使用面は検出面よりも上位にあった可能性がある。

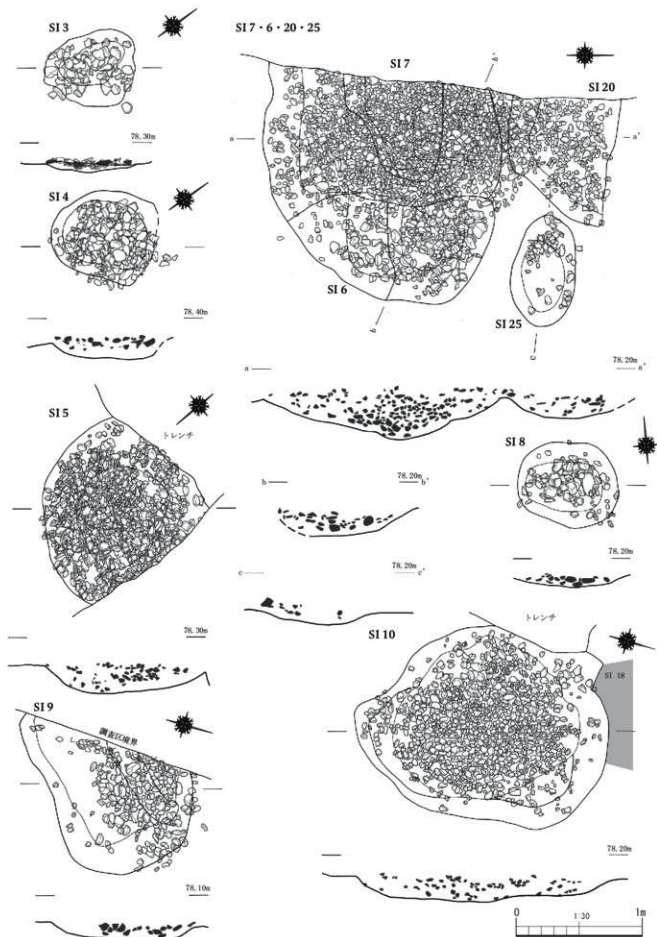
## 土坑

土坑は6基検出した。以下に特徴的な土坑について所見を報告する。

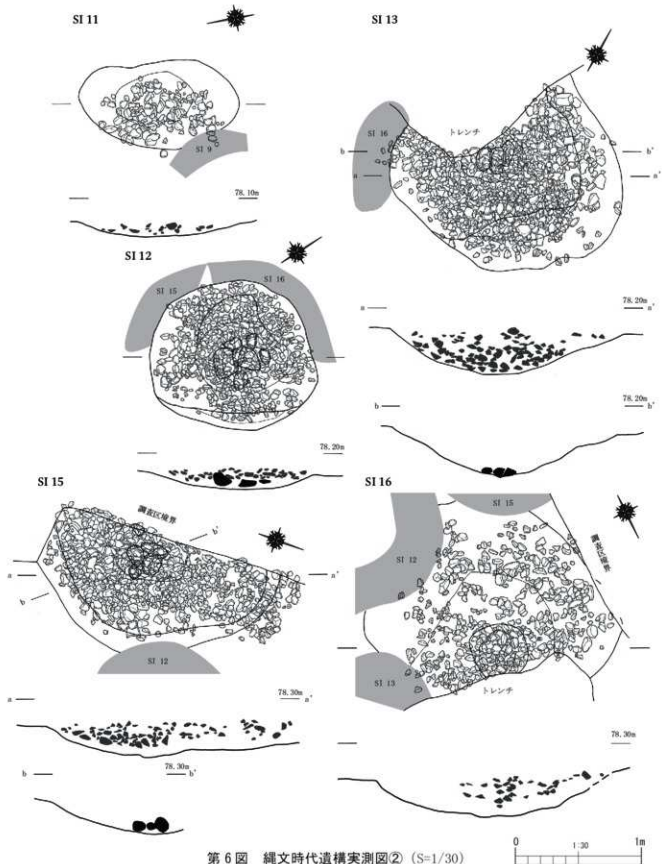
SC19はSI10の直下で検出した。礫がほとんど出土していないため、土坑として記録した。しかし掘り込みの範囲がSI10と大部分は同じであることから同一遺構の可能性も考えられる。

SC23は遺構検出時に発見することができず、包含層掘削後の土層断面で確認した。基本層序7層から掘り込まれているため、縄文時代早期に帰属する。





第5図 縄文時代遺構実測図① (S=1/30)

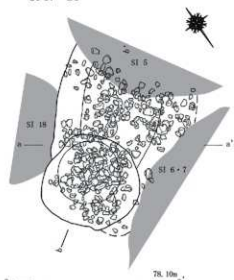


第6図 縄文時代遺構実測図② (S=1/30)

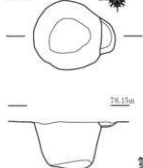
#### 溝状遺構

調査区南端でSE1を1条検出した。長さは約7m+α、幅約0.7mで北から南へ向かって延びている。遺構の時期は出土遺物から近世に該当すると考えられる。出土遺物は無釉陶器(14)1点、染付片(15)1点が出土している。

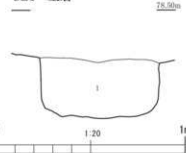
SI 17・21



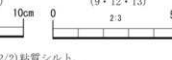
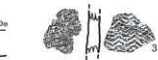
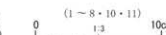
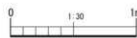
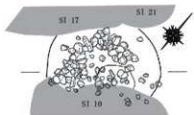
SC14



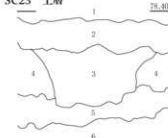
SE1 土層



SI 18



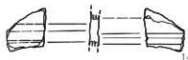
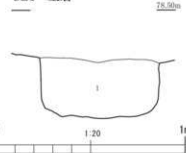
SC23 土層



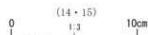
- 1 : 黒褐色 (hue10YR2/2) 粘質シルト。
- 2 : 2に比べて礫をほとんど含まない。
- 3 : 黒褐色 (hue7.5YR3/2) 粘質シルト。  
塊礫を多く含む。
- 4 : SC23埋土 暗褐色 (hue10YR3/3) シルト。  
小林軽石、小礫、炭化物を含む。粘性、しまりあり。
- 5 : 褐色 (hue10YR4/4) 粘質シルト。  
小林軽石を微量に含む。
- 6 : 褐色 (hue10YR4/6) 粘質シルト。  
小林軽石を多量に含む。
- 7 : 黄褐色 (hue2.5YR5/6) ローム (粘質土)。

第7図 縄文時代遺構実測図③及び出土遺物実測図 (S = 1/30、2/3・1/3)

SE1 土層



- 1 : 赤黒色 (hue2.5YR1.7/1) シルト。粘性弱い。しまりあり。  
小石、パミス、暗褐色 (hue10YR3/4) シルトを含む。



第8図 近世の溝状遺構 (SE1) 実測図 (S = 1/20) 及び出土遺物実測図 (S = 1/3)

第2表 縄文時代早期集石遺構計測表

掲載頁	遺構名	種				張り込み		基石		遺物の有無	C14測定値(年)	備考
		幅員(m)	総積数	総重量(kg)	総厚(m)	深さ(m)	積込数	総重量(kg)				
p.7	SI-3	0.80×0.63	78	10.60	0.78×0.61	0.99	-	-	-			
	SI-4	1.04×0.73	286	24.79	0.88×0.81	0.17	-	-	-			
	SI-5	1.45×1.28	1182	67.79	1.52×1.32	0.20	-	-	-	SI17と切り合う		
	SI-6	1.87×1.25	606+α	-	-	0.25	-	-	-	SI7と切り合う 出土炭化材:タマリ		
	SI-7	-	2216	124.40	-	0.33	-	-	-	SI6・17・20と切り合う		
	SI-8	0.85×0.57	93	12.07	0.84×0.71	0.99	-	-	-	SI10と切り合う		
	SI-9	1.63×0.90	283	21.40	1.61×1.03+α	0.12	-	-	-	SI11と切り合う		
	SI-10	1.92×1.40	1200	73.90	2.04×1.56	0.20	-	-	-	SI8・18と切り合う		
p.8	SI-11	1.00×0.62	197	13.50	1.28×0.73	0.13	-	-	-	SI9と切り合う		
	SI-12	1.25×1.19	781	56.20	1.26×1.20	0.13	8	11.5	-	SI15・16と切り合う		
	SI-13	2.02×1.43	1610	171.30	1.89×1.50+α	0.35	3	5.2	-	SI16と切り合う		
	SI-15	2.09×0.91	1600	109.60	1.90×0.96	0.29	5	10.3	-	SI12と切り合う		
	SI-16	1.73×1.50	333	20.70	2.03×1.47	0.27	-	-	-	SI12・13・15と切り合う		
	p.9	SI-17	1.48×1.09	392	15.70	1.13×0.45	0.10	-	-	-	SI5・7・18・21と切り合う 出土炭化材:スズジイ	
SI-18		0.87×0.51	87	9.30	0.91×0.50+α	0.17	-	-	-	SI7・10・21と切り合う		
p.7	SI-20	-	380	15.40	-	-	-	-	-	SI7と切り合う		
p.9	SI-21	0.73×0.36	68	2.90	0.79×0.77	0.98	-	-	-	SI17・18と切り合う		
p.4	SI-24	-	-	-	-	-	-	-	-	調査区画内にて確認したため、平面図は不明		
p.7	SI-25	0.84×0.39	63	3.30	0.89×0.52	0.10	-	-	-			

第3表 遺構内出土土器観察表

掲載頁 図番号	掲載 番号	遺構名	種別	法線cm ( )=復元			色調		構成	新土(L:mm F: 量)			備考	実測 番号			
				口径	底径	器高	外面	内面		A	B	C					
p.9 第7図	1	SI3	甕	-	-	-	にぶい・暗 2.036/4	にぶい・黄褐 2.036/4	良好	ナブ	炭灰	2	0.5	多	無文土器1類 口唇部染灰	49	
			深鉢	-	-	-	にぶい・黄褐 10.927/4	にぶい・黄褐 10.927/4	良好	山形押型文	ナブ	2	1	1	僅	押型文1類	50
	3	SI6・7	甕	-	-	-	にぶい・暗褐 5.035/3	灰赤 2.038/2	良好	山形押型文	ナブ	2	0.5	多	押型文1類	52	
			深鉢	-	-	-	にぶい・暗褐 5.038/3	にぶい・暗褐 2.514/3	やや 良好	山形押型文	ナブ	1	1	1	多	押型文2類	53
	5	SI6・7	甕	-	-	-	にぶい・暗褐 5.038/3	暗赤褐 5.032/2	やや 良好	山形押型文	ナブ	1	1	1	多	押型文2類 口唇部染灰	54
			深鉢	-	-	-	にぶい・暗褐 5.038/3	にぶい・暗褐 2.514/3	やや 良好	山形押型文	ナブ	2	0.5	1	僅	押型文1類	51
	7	SI10	甕	-	-	-	にぶい・暗褐 5.038/3	にぶい・暗褐 5.038/3	良好	山形押型文	ナブ	1	1	1	多	押型文2類 編組染灰	57
			深鉢	-	-	-	にぶい・暗褐 5.038/3	にぶい・暗褐 2.514/3	良好	山形押型文	ナブ	1	1	1	多	押型文2類	56
	10	SI13	甕	-	-	-	暗赤 2.038/1	暗赤 2.038/1	良好	縄文	丁字なナブ	1	1	1	多	押型文1類	58
			深鉢	-	-	-	にぶい・暗 2.035/3	暗赤 5.038/1	良好	貝殻粒彩色文	丁字なナブ	2	1	1	多	下割基式	59

赤粘土 A: 長石・石英 B: 輝石・角閃石 C: 雲母

第4表 遺構内出土土器観察表

掲載頁 図番号	掲載 番号	出土位置 (遺構名)	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考	実測 番号
					(cm)	(cm)	(cm)	(g)		
p.9 第7図	9	SI10	石鏝	チャート	2.6	(1.9)	0.3	(0.9)	脚部欠損	73
	12	SI13	石鏝	チャート	(1.7)	(1.45)	0.4	(0.9)	先端部・下部欠損	70
	13	SI16	石鏝未製品	黒曜石 (巻ノ木押型)	2.25	1.55	0.55	2.0		71

( )の値は推定値を示す

第5表 遺構出土陶磁器観察表

掲載頁 図番号	掲載 番号	遺構名	種別	器種	法線cm ( )=復元			産地	時期	備考		実測 番号		
					口径	底径	器高			色調	外面		内面	
p.9 第8図	14	SE1	陶器	鉢	-	-	-	-	近世	色調	外面 黄灰(2.516/1)	内面 黄灰(2.515/1)	60	
	15	SE1	磁器	碗	-	-	-	-	近世	内面	四方線文	色調	外面 灰赤(1/1)	内面 灰白(57/1)

中 ( ) は推定値

## 第2項 包含層出土土器について

基本層序4から7層にかけて縄文時代早期の土器が出土している。包含層が後世の攪乱坑による削平を受けていた調査区北東側を除いた範囲に分布しており、その中で無文土器の出土が過半数を占める。土器形式毎の分布状況を見ると、無文土器1類は調査区の南側に集中し、多数接合する資料がみられる。それに対して、無文土器2類は全体的に分布する。押型文2類は出土総数は少ないものの調査区北側に分布する。以下に既存の分類を元に報告を行う。

### 押型文土器 (16～28)

外面に彫刻を施した棒（原体）などを回転させて、内外面に山形や楕円形などの文様を施す土器である。施文方向から以下の1類から2類に細分した。ここでは原体を回転させる施文方法が同じことから縄文を施すものも押型文土器の範疇にとらえて報告する。

#### ・1類 (16～24)

外面に横位の押型文を施したもので内面の調整はナデである。16、17は口縁部が直口し、器壁が薄いものである。17は16と比べ、器壁がやや厚手である。18はナデ調整と文様の境界部に原体端の痕跡がみられる。形状から、原体端がV字状に加工されていたと推測される。

#### ・2類 (25～28)

外面に縦位または斜位の押型文を施したもので、内面の調整はナデである。26は内面押型文がみられることから口縁部付近のものである。27は柵状文がみられる。28は外面に斜位の縄文を施したもので、内面押型文も縄文である。

### 中原土器 (29)

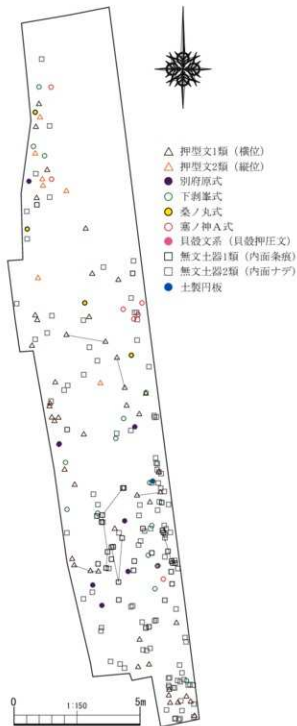
外面には貝殻腹縁による条線文を施したものである。29は条線を縦位に行った胴部である。

### 別府原式土器 (30)

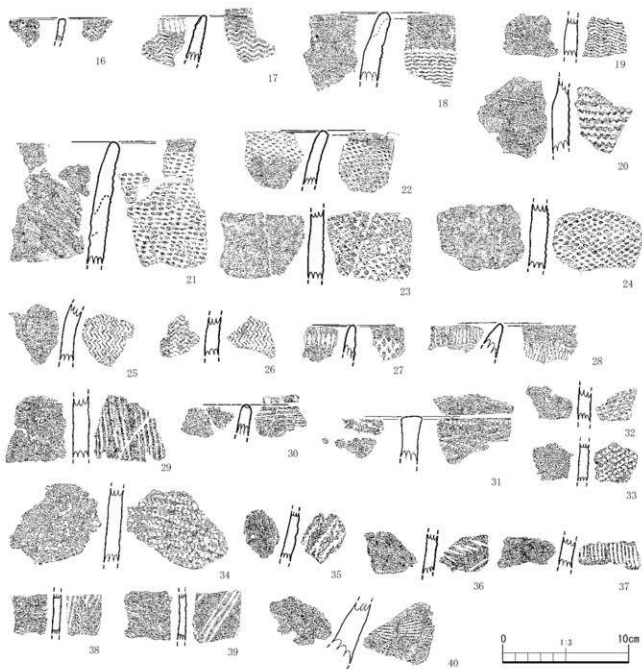
外面には横位の浅い貝殻条痕を施したもので、内面の調整はナデである。30は口唇部にキザミを施す。

### 下剝峯式土器 (31～35)

外面には刺突文を全面に施したもので、内面の調整はナデである。31はやや内湾する口縁部片で、外面に羽状の貝殻刺突文を施す。



9図 包含層出土土器分布図【型式別】 (S=1/150)



第10図 包含層出土土器実測図① (S = 1/3)

桑ノ丸式土器 (36・37)

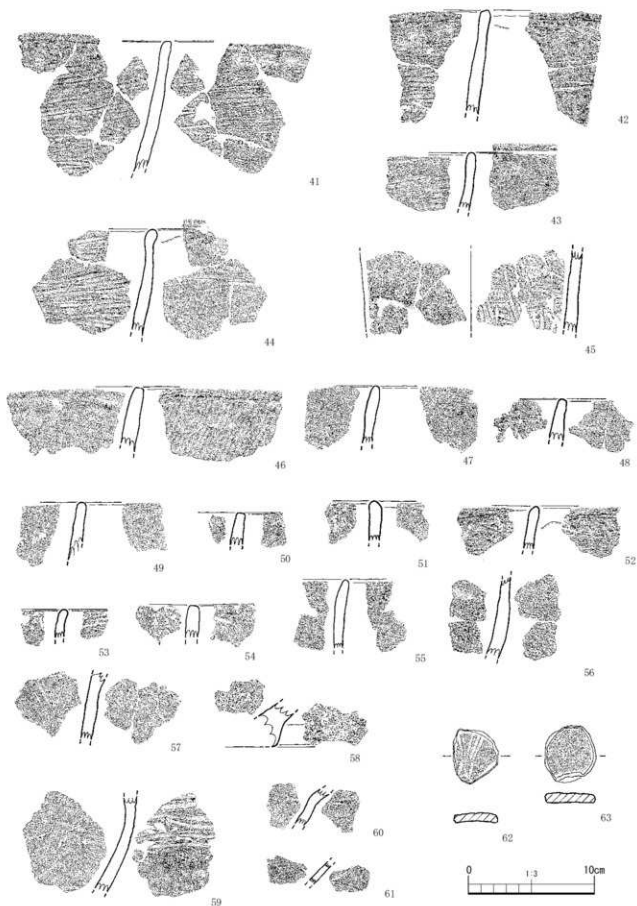
外面に沈線(36)や貝殻条痕(37)を全面に施したもので、内面の調整は丁寧なナデである。36は外面に羽状の短沈線文を施す。

塞ノ神A式土器 (38・39)

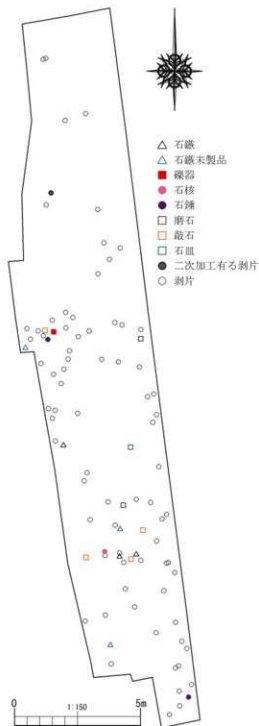
外面には斜位の沈線文・縦位の燃糸文を施したもので、内外面の調整はナデである。

貝殻文系の土器 (40)

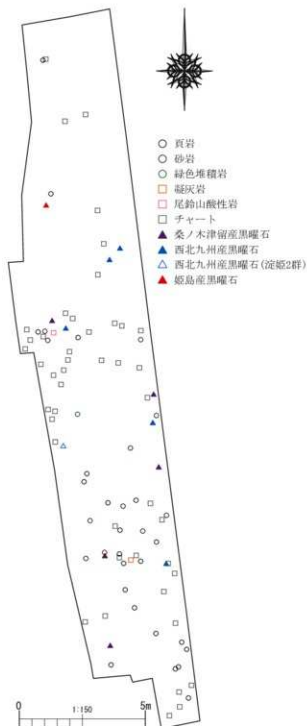
外面に貝殻背縁で押圧するもので、調整はナデである。胎土は別府原式と類似するが、施文方法が別府原式と異なるため、本書では貝殻文系の土器として報告する。



第 11 图 包含層出土土器実測图② (S = 1/3)



第12図 包含層出土石器分布図【器種別】(S=1/150)



第13図 包含層出土石器分布図【石材別】(S=1/150)

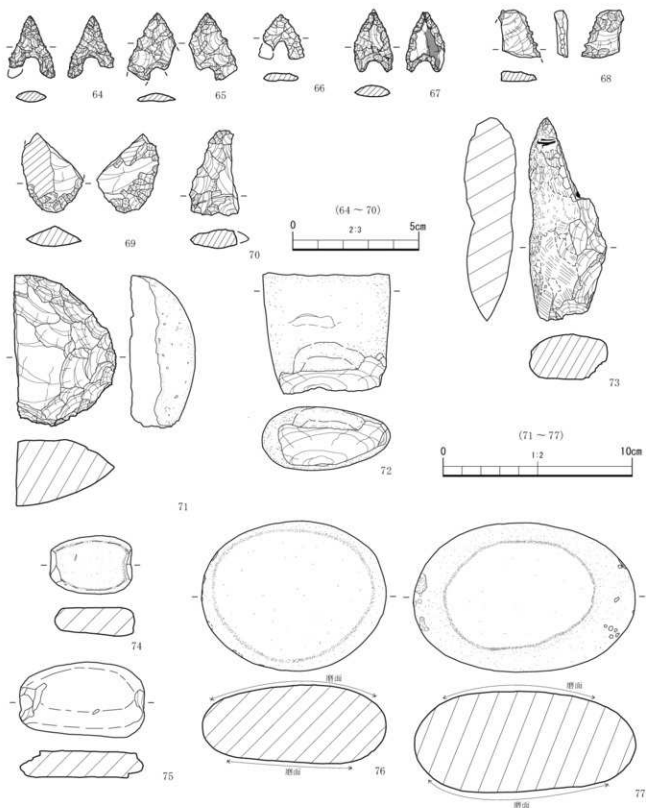
### 無文土器 (41~58)

内外面にナデや条痕で調整を加えただけで、文様がないものである。内面もしくは内外面に条痕で調整するものと、内外面ともナデ調整するものの2種類に大別できる。本書では前者を1類、後者を2類として細分した。

#### ・1類 (41~45・55)

41、44は内外面に条痕で調整するもの、42、43、45は内面のみ条痕調整するものである。45



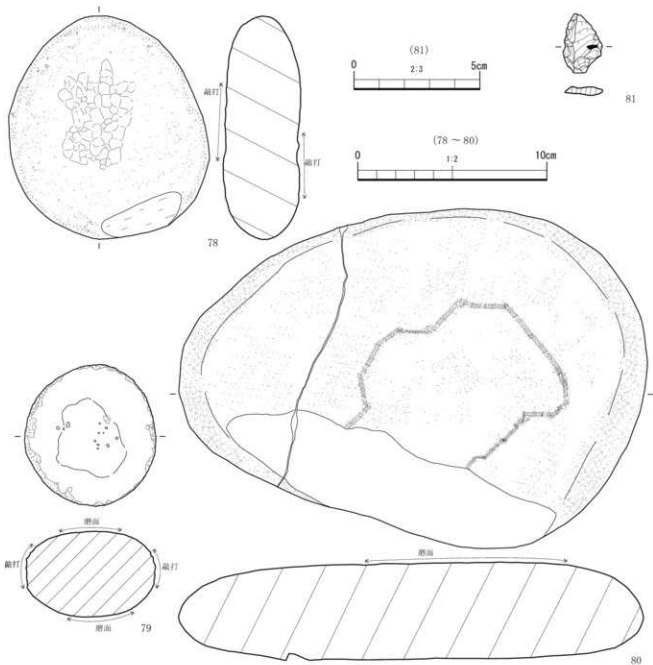


第14図 包含層出土石器実測図① (S = 2/3・1/2)

はナデ調整を横位の後、縦位に行なっている。全て繊維が混入している。

・2類 (46~54・56~58)

口縁部は開きながら直線的に立ち上がるものと、やや外反するものがある。46は土器外面に付着していた炭化物で年代測定を行い、補正年代で3095±25年BPの測定値が得られた。



第15図 包含層出土石器実測図② (S = 2/3 · 1/2)

その他の土器 (59~61)

地層横転等の影響で混入していた土器である。59は指宿式、60、61は黒色磨研土器である。

土製円板 (62・63)

62は塞ノ神A、63は無文土器2類を加工して整形した土製品である。

第3項 包含層出土石器について

基本層序4から7層にかけて縄文時代早期の石器が出土している。土器の分布状況と同じく南側で多く出土している。器種別の分布では剥片が主体であり、製品類は少ない。石材別に見ると、108点中、56点がチャート製であり、その内訳は剥片52点、石鏃4点である。

石鏃 (64~67)、石鏃未製品 (68~70)

押圧剥離を行なって尖頭部を作出したものを。全て基部の挟りが深くなっている。66は産地分析を行い、淀姫2群産黒曜石と比定された。未製品は3点出土している。

#### 礫器 (71)

剥片の一部に調整を施し粗い刃部を作出したもの。尾鈴山酸性岩製が1点出土している。

#### 石核 (72)

石器の素材となる剥片を剥離した石塊、砂岩製が1点出土している。

#### 磨製石斧 (73)

73は刃部に研磨を施しており、鋭角に整えられている。基部に敲打痕が見られる。

#### 石錘 (74・75)

74は砂岩製、75は頁岩製の打ち欠き石錘で、短辺部分に挟りを形成している。

#### 磨石 (76・77)、敲石 (78・79)、石皿 (79)

礫の一部に平滑面や敲打痕をもつもので、砂岩製と凝灰岩製が出土している。

#### 二次加工有る剥片 (81)

剥片の調整が施されているが、その調整の意図が読み取れないもの。頁岩製が1点出土した。

第6表 包含層出土石器観察表①

発掘区画 調査年度	発掘 番号	遺物 種別	用途 分類	測定値 (mm)				色調	構成	調整			形状(土:mm F:%)			備考	実測 番号	
				長さ	幅	厚	重量			外面	内面	A	B	C				
				1	2	3	4			1	2	1	2	3				
b-12 期10層	36	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	灰黄褐 10/95/2	灰黄褐 10/95/2	良好	山形押型文	丁寧なナゲ	1	1	多	押型文1層 臼器器生ずミカ	9	
	7	5層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 5/94/3	12.5/5.4 2.5/94/3	良好	山形押型文 ナゲ	山形押型文 穂状文	1	1	多	押型文1層	6	
	18	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	10/96/2	2.5/7/2	良好	山形押型文 ナゲ	ミガキ	1	1.5	少	押型文1層 内外ス付着 臼器器生ずミ	7	
	19	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	7.5/96/6	10/95/2	良好	山形押型文	ナゲ	1	1	多	押型文1層	5	
	20	表採	礫文 凸線	---	---	---	---	灰黄褐 10/94/2	灰黄褐 10/95/2	良好	山形押型文	ナゲ	1	1	多	押型文1層	7	
	21	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 5/95/4	明礫 7.5/95/6	良好	楕円押型文	ナゲ1工具	2	2	少	押型文1層 楕円器	4	
	22	表採	礫文 凸線	---	---	---	---	灰褐 7.5/94/2	灰褐 7.5/94/2	良好	楕円押型文	楕円押型文	1	2	多	押型文1層 臼器器生ず押型文	8	
	23	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 7.5/96/4	明礫 7.5/94/1	良好	楕円押型文	ナゲ	1	2	少	押型文1層	3	
	24	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	10/96/1	明礫 10/95/2	良好	楕円押型文	ナゲ	1.5	2	多	押型文1層	2	
	25	5層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 5/94/3	12.5/5.4 5/94/3	良好	山形押型文	山形押型文カ	1	1	多	押型文2層	11	
	26	5層	礫文 凸線	---	---	---	---	灰赤 2.5/94/2	灰赤 2.5/94/2	良好	山形押型文	山形押型文	1	1	多	押型文2層	13	
	27	5層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 5/94/4	12.5/5.4 2.5/94/3	良好	楕円押型文	穂状文 ナゲ	2	0.5	多	押型文2層	14	
	28	5層	礫文 凸線	---	---	---	---	7.5/96/1	明礫 10/95/2	良好	礫文	穂状文 ナゲ	2	1	多	押型文2層	12	
	29	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 10/96/4	12.5/5.4 10/96/1	良好	条線文	ミガキ	2	2	少	中原式	18	
	30	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 10/96/3	12.5/5.4 10/96/3	良好	条線文 ナゲ	条線文 ナゲ	1	0.5	多	別府原式 臼器器生ずミ	10	
	31	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	7.5/96/3	7.5/95/4	良好	貝殻刺突文	丁寧なナゲ	1	1	多	1 臼器器生ずミ	21	
	32	5層	礫文 凸線	---	---	---	---	灰黄褐 10/95/2	灰黄褐 10/95/2	良好	刺突文	ナゲ	3.5	0.5	1	多	下割式	23
	33	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 7.5/96/4	12.5/5.4 10/96/1	良好	刺突文	ナゲ	2	1	多	下割式	25	
	34	5層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 5/95/4	12.5/5.4 7.5/95/3	良好	貝殻刺突文	ナゲ	2	1	多	下割式	22	
	35	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 5/95/4	12.5/5.4 7.5/95/3	良好	貝殻刺突文 ナゲ	貝殻刺突文 ナゲ	1.5	1	多	下割式	24	
	36	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	灰褐 7.5/95/2	明礫 7.5/94/1	良好	沈線文	丁寧なナゲ	2.5	多	1	多	委ノ丸式	19
	37	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 5/95/4	12.5/5.4 7.5/95/4	良好	貝殻刺突文 ナゲ	丁寧なナゲ	2	1	多	委ノ丸式	20	
	38	4層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 10/96/3	12.5/5.4 10/96/4	良好	沈線文 条線文	ナゲ	1	少	多	委ノ丸式	15	
	39	表採	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 7.5/96/4	12.5/5.4 7.5/96/4	良好	沈線文 条線文	ナゲ	1	1.5	多	委ノ丸式	16	
	40	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	12.5/5.4 10/96/3	灰黄褐 10/96/2	良好	貝殻刺突文	ナゲ	0.5	多	多	貝殻刺突文	46	
	b-13 期11層	41	6a層	礫文 凸線	---	---	---	---	7.5/94/3	12.5/5.4 5/95/3	良好	条線文 ナゲ	条線文 ナゲ	2	1	少	無文土器1層 楕円器	40

参照土: A: 灰石 B: 黒石 C: 角閃石 D: 雲母

第7表 包含層出土土器観察表②

発掘区 図番号	高取 層番号	器種	口徑	口径	器高	色調		焼成	調査				胎土(上:mm 下:%)			備考	実測 番号
						外面	内面		外面	内面	A	B	C				
B.13 第15段	42	6a層 甕鉢	-	-	-	12.5%焼 7.0%赤	12.5%焼 7.0%赤	良好	条板ナデ	条板文 ナデ	条板文 指面正底	2	0.5	0.5	1	無文土器類 織成器人	41
	43	6a層 甕鉢	-	-	-	12.5%焼 7.0%赤	12.5%焼 7.0%赤	良好	条板ナデ	条板	条板	4	0.5	0.5	1	無文土器類 織成器人	44
	44	6a層 甕鉢	-	-	-	12.5%焼 7.0%赤	12.5%赤焼 7.0%赤	良好	条板ナデ	ナデ	条板	2.5	0.5	0.5	1	無文土器類 織成器人	36
	45	6a層 甕鉢	-	-	-	12.5%赤焼 7.0%赤	12.5%赤焼 7.0%赤	良好	ナデ	ナデ	条板	2	1	1	1	無文土器類 織成器人	43
	46	7層 甕鉢	-	-	-	12.5%赤焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	良好	工具ナデ	ナデ	ナデ	1	1	1	1	無文土器類 外面凹凸物付	34
	47	5層 甕鉢	-	-	-	12.5%赤焼 7.0%赤	12.5%赤焼 7.0%赤	良好	ナデ	ナデ	ナデ	1	1	1	1	無文土器類	30
	48	5層 甕鉢	-	-	-	12.5%赤焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	良好	ナデ	ナデ	ナデ	1	1	1	1	無文土器類	28
	49	6a層 甕鉢	-	-	-	12.5%焼 7.0%赤	12.5%焼 7.0%赤	良好	ナデ	ナデ	ナデ	1	1	1	1	無文土器類 外面スス付者	31
	50	5層 甕鉢	-	-	-	12.5%焼 7.0%赤	12.5%焼 7.0%赤	良好	ナデ	ナデ	ナデ	1	1	1	1	無文土器類	29
	51	5層 甕鉢	-	-	-	焼灰 7.0%赤	焼灰 7.0%赤	良好	ミガキ	ナデ	ナデ	0.5	0.5	0.5	1	無文土器類 口唇部ミガキ	32
	52	6a層 甕鉢	-	-	-	12.5%赤焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	良好	ナデ	ナデ	指面正底	2	0.5	0.5	1	無文土器類 織成器人	42
	53	6a層 甕鉢	-	-	-	焼灰 10%赤	赤黄 2.0%赤	良好	条板文 ナデ	ナデ	ナデ	0.5	0.5	0.5	1	無文土器類	33
	54	表探 甕鉢	-	-	-	赤明焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	やや 良好	ナデ	ナデ	ナデ	0.5	1.5	1.5	1	無文土器類	35
	55	5層 甕鉢	-	-	-	焼灰 10%赤	焼灰 7.0%赤	良好	工具ナデ	条板文 ナデ	ナデ	1	1	1	1	無文土器類	45
	56	6a層 甕鉢	-	-	-	12.5%赤焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	良好	ナデ	ナデ	指面正底	1	1	1	1	無文土器類 内面スス付者	37
57	5層 甕鉢	-	-	-	12.5%赤焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	良好	ナデ	ナデ	ナデ	1	0.5	0.5	0.5	無文土器類 内面スス付者	37	
58	6a層 甕鉢	-	-	-	12.5%赤焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	やや 良好	ナデ	ナデ	ナデ	1	1	1	1	無文土器類	38	
59	表探 甕鉢	-	-	-	12.5%赤焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	良好	比線文 相変文	織文 ナデ	ナデ	ミガキ	0.5	0.5	0.5	1	指面文 外面スス付者	47
60	5層 甕鉢	-	-	-	赤焼 10%赤	赤黄 10%赤	良好	ナデ	ナデ	ナデ	1	1	1	1	無文土器類 黒色研砕土器	26	
61	5層 甕鉢	-	-	-	焼灰 10%赤	焼灰 7.0%赤	良好	ミガキ	ミガキ	ナデ	0.5	0.5	0.5	1	黒色研砕土器	27	
62	5層 土製土 器類	-	-	-	12.5%赤焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	良好	比線文 織成カ ナデ	ナデ	ナデ	1	1	1	1	窯ノ跡式を転用 製出に鑑み、形薄	17	
63	6a層 土製土 器類	-	-	-	12.5%赤焼 10%赤	12.5%赤焼 10%赤	良好	ミガキ	ナデ	ナデ	1	1	1.5	1.5	無文土器類を加工 製出に鑑みあり	48	

赤粘土 A:長石・石英 B:黒石・角閃石 C:雲母

第8表 包含層出土土器観察表

高取区 図番号	高取 層番号	出土位置 (図番号)	器種	石材	長さ		幅	厚さ	重量	備考	実測 番号
					(cm)	(cm)					
B.15 第15段	64	6a層	石鏡	チャート	2.45	(1.10)	0.45	(1.1)		脚部欠損	74
	65	6a層	石鏡	チャート	(2.65)	(1.10)	0.4	(1.1)		脚部欠損	75
	66	6a層	石鏡	形礫石 (河原産)	1.8	1.65	0.3	0.5		脚部欠損	72
	67	表探	石鏡	頁岩	(2.35)	1.55	0.5	(1.5)		先端部欠損 光沢有	76
	68	6a層	石鏡木製品	(磯ノ木津産)	(1.95)	(1.7)	(0.10)	(1.9)			77
	69	6a層	石鏡木製品	チャート	(3.2)	(2.0)	(0.10)	(5.4)		上部欠損	78
	70	6a層	石鏡木製品	頁岩	(3.4)	2	0.8	4.2			79
	71	5層	石鏡	尾山山麓性頁岩	5.2	5	3.5	389.3		石鏡の可能性あり	80
	72	6a層	石鏡	砂岩	6.4	6.7	3.3	206.5			81
	73	表探	磨製石斧	ホルンブルス	10.7	(4.25)	(2.7)	(31.6)		刃部再加工、基部欠損	82
	74	6a層	石鏡	砂岩	3.1	4.35	1.5	27.9			65
	75	5層	石鏡	頁岩	4	6.6	1.4	62.18			64
	76	6a層	石鏡	砂岩	9.75	7.9	4.15	452.3			63
	77	5層	石鏡	砂岩	11.7	7.85	5.3	711.78			62
	B.16 第16段	78	6a層	石鏡	凝灰岩	10.7	11.9	5.2	610.3		
79		6a層	石鏡	砂岩	7.4	6.9	4.5	302.6			66
80		6a層	石鏡	頁岩	17.9	24.9	5.2	3100			67
81	5層	二次加工有る割 刀	頁岩	2.35	1.55	0.4	1.1			69	

( )の値は積り法量を示す

### 第III章 自然科学分析について

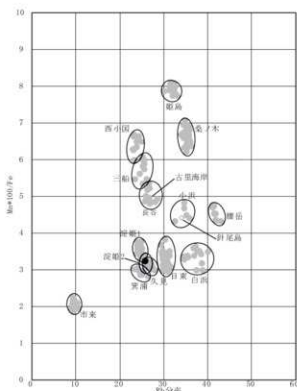
本遺跡から出土した試料や遺物について自然科学分析を行った。内容は、放射性炭素年代測定、樹種同定、黒曜石産地推定（蛍光X線）である。放射性炭素年代測定については集石遺構から採取したものと、土器外面に付着した炭化物の2種類を分析した。それらの結果について、一覧表で示す。

第9表 放射性炭素年代測定及び樹種同定結果

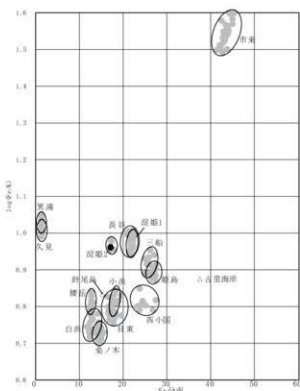
試料No.	試料の詳細	種類	前処理 測定法	$\delta^{13}C$ (‰)	14C年代 (年BP)	暦年校正用 年代(年BP)	暦年年代(校正年代)		樹種同定
							1 $\sigma$ (98.2%確率)	2 $\sigma$ (95.4%確率)	
1	S1-6 集石遺構	炭化材	AAA処理 AMS法	-25.33 $\pm$ 0.26	8675 $\pm$ 30	8675 $\pm$ 32	cal BC 7713-7692 (14, 18%) cal BC 7679-7664 (9, 50%) cal BC 7669-7650 (44, 49%)	cal BC 7747-7594 (95, 470)	クリ
2	S1-16 集石遺構	炭化材	AAA処理 AMS法	-27.35 $\pm$ 0.17	8600 $\pm$ 30	8598 $\pm$ 32	cal BC 7641-7634 (4, 64%) cal BC 7606-7592 (64, 23%)	cal BC 7728-7723 (0, 63%) cal BC 7713-7692 (4, 31%) cal BC 7682-7577 (88, 17%) cal BC 7559-7544 (2, 35%)	—
3	S1-17 集石遺構	炭化材	AAA処理 AMS法	-28.96 $\pm$ 0.16	8570 $\pm$ 30	8568 $\pm$ 32	cal BC 7586-7578 (65, 13%) cal BC 7553-7550 (3, 12%)	cal BC 7606-7533 (95, 470)	スタジイ
4	T層 土	土器付着 炭化物 (汚損)	AAA処理 AMS法	-25.58 $\pm$ 0.18	3095 $\pm$ 25	3093 $\pm$ 25	cal BC 1412-1379 (0, 16%) cal BC 1346-1305 (88, 13%)	cal BC 1424-1283 (95, 470)	—

第10表 黒曜石の各測定値及び産地推定結果

試料 番号	岩種	出土位置	K強度 (cps)	M強度 (cps)	Fe強度 (cps)	助強度 (cps)	全強度 (cps)	Z強度 (cps)	助分率	Mn/100 Fe	Sr分率	log F <sub>K</sub>	判別群	エリア	
66	石鏡	66-336	263.7	76.1	244.7	780.4	517.2	337.9	1300.7	25.79	3.23	17.09	0.96	産地2	佐世債



第16図 黒曜石産地推定判別図①



第17図 黒曜石産地推定判別図②

## 第IV章 まとめ

今回の調査では、過去の調査地点と同じように縄文時代早期の文化層が確認された。出土土器の中で最も多く出土しているのは無文土器1類及び2類であり、次に出土しているのが、押型文土器である。押型文土器は特徴から早期中葉のものと考えられ、放射性炭素年代測定を実施した集石遺構の時期とも合致する。石器については、未掲載遺物も含めて、点数の確認を行った。その結果、チャート(131点中65点)が最も多く出土している。またチャート製の遺物は石鏃と剥片のみである。剥片は押圧剥離の際に生じたと考えられる薄い平らな剥片が目立つ傾向にある。遠隔地石材については、桑ノ木津留産、姫島産、西北九州産の黒曜石が出土した。その中で、西北九州産黒曜石が半数を占める(21点中12点)。西北九州産黒曜石が遠隔地石材の主体となる他の遺跡は、伊勢ノ原遺跡と同じ高岡町に所在する橋山第2遺跡(1次調査)があげられる。橋山第2遺跡1次調査では、早期中葉の土器が多く出土しており、今回の調査結果と同じ傾向を示している。

遺構、遺物の分布状況を見ると、集石遺構は調査区の北側で密集する。調査区北東側が大きく攪乱を受けていたため、その範囲からは集石遺構がほとんど検出されなかった。ただし、周囲の状況から実際はさらに多くの集石遺構が存在していたと推定される。遺物は、土器、石器ともに調査区の南側で多く出土している。今回は狭い調査区であったが、当時の空間利用の違いが認められた。

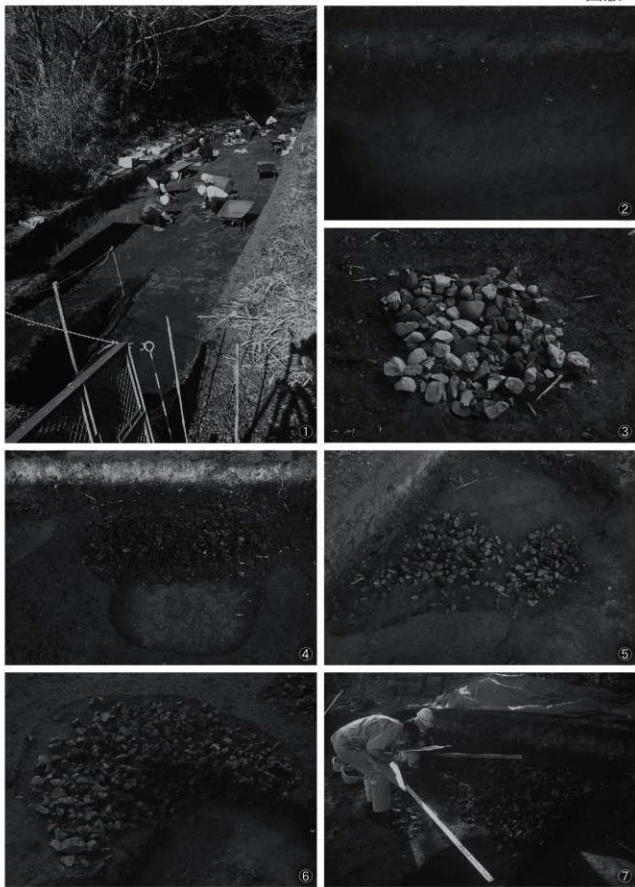
旧石器時代の調査については、礫が1点出土したものの、遺物包含層を確認することはできなかった。しかし、伊勢ノ原遺跡第1地点では旧石器が出土しており、調査地周辺では当該時期の遺物包含層が存在すると思われる。今後の調査成果の蓄積をまちたい。

### 主要参考文献

山下大輔 2023『異系統土器の共存にみる九州縄文文化』興同成社

宮崎市教育委員会 2008『橋山第2遺跡』宮崎市文化財調査報告書第73集

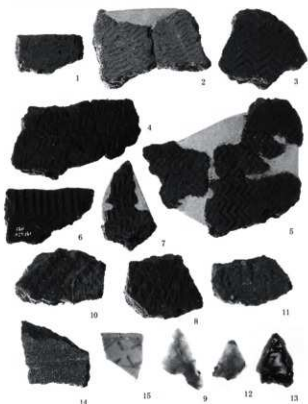
宮崎市教育委員会 2021『浦之名地区遺跡群』宮崎市文化財調査報告書第135集



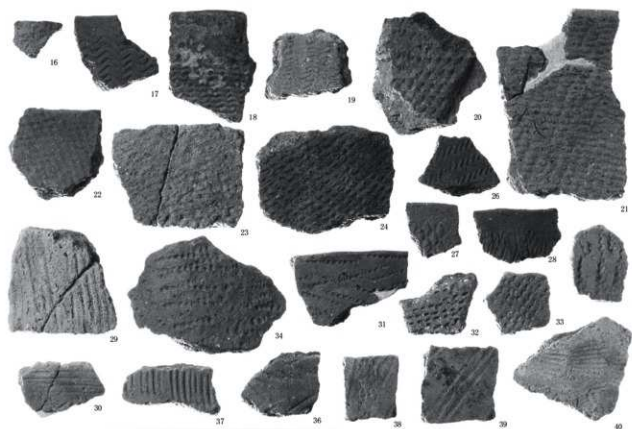
① 調査区全景 ② 基本層序 ③ S14 ④ S17 ⑤ S19・11 ⑥ S113 ⑦ 作業風景



⑧ SE1

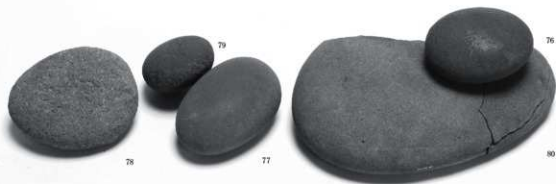
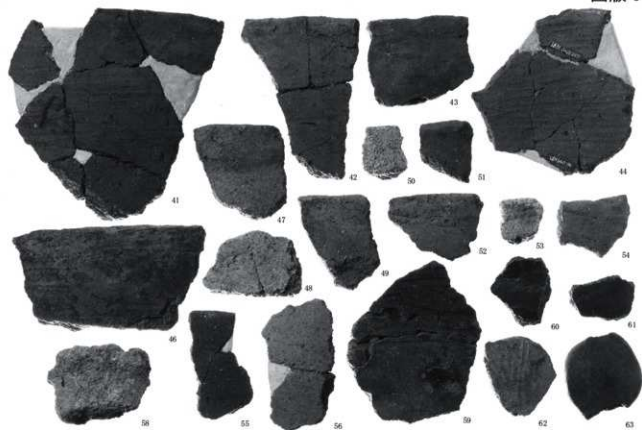


遺構内出土遺物



包含層出土遺物①





包含層出土遺物②

## 報告書抄録

ふりがな	いせのはらいせき だいさんちてん						
書名	伊勢ノ原遺跡（第3地点）						
副書名	畑地帯総合整備事業（担手支援）内山東地区に伴う埋蔵文化財調査報告書						
巻次							
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第146集						
編集者名	市川勇樹						
発行機関	宮崎市教育委員会						
所在地	〒889-1696 宮崎市清武町西新町1番地1号						
発行年月	2024年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査原因	種別
いせ はらいせき 伊勢ノ原遺跡 だい ちてん (第3地点)	みやざきし 宮崎市 たかおかちよう 高岡町 うらのみよう 浦之名	45201	5-021	31° 56' 56"	131° 16' 50"	農道敷設	散布地
所収遺跡名	調査期間	調査面積	主な時代	主な遺構と遺物			
伊勢ノ原遺跡 (第3地点)	2021.11.9～2022.2.15	128 m <sup>2</sup>	縄文 近世	集石遺構、溝状遺構など 縄文土器、打製石鏃、陶磁器など			
特記事項	縄文時代早期の集石遺構 19 基を検出。						

宮崎市文化財調査報告書第146集

伊勢ノ原遺跡  
(第3地点)

令和6年3月  
宮崎市教育委員会